

「第1回 昭和ケア会議」のおさらいと今後の進め方

開催日時：平成 29 年 7 月 24 日 14 時～16 時

場所：在宅介護支援センターほほえみの里「プラザ昭和」

参加者：昭和地区民生委員、高齢者サロン、老人クラブ

運営者、地域住民有志、在宅介護支援センター

ほほえみの里相談員、知立市包括支援センター、

知立市社会福祉協議会職員、知立市長寿介護課、

健康増進課、福祉課職員 等

まとめ (株)ジャパン総研 小林・知立市福祉課

1. 「昭和ケア会議」の位置付けや目的

(1) 「昭和ケア会議」の位置づけ

～「昭和未来会議」のアクションプロジェクトの一つとして始動～

◆平成 28 年 6 月「昭和未来会議」スタート

◆多様な考え方や意見がある中、まとめられた 2 つの「みんなの理想の未来」。

①「みんなが安心して暮らせる昭和に」

②「若者が活躍できる魅力的な昭和に」

◆この、みんなの理想の未来に向けて「やってみたいこと」のアイデア出しを実施。

様々なアイデアが上がる中、特に意見が多かった 3 つの項目についてグループ分け。

①「イベントグループ」

②「日常の交流の場グループ」

③「支援が必要な人のためにできることグループ」

◆アイデアの実現に向けた話し合いを続ける中で、出てきた課題

①「メンバーが固定されず、月一回の話し合いでなかなか進まない」

②「関わる人々がワクワクしないと続かない」

③「既存の活動の充実も大切」

⇒①②に対応して「個別アクションプロジェクト」を始動

⇒③に対応して「地域資源リスト」を作成、関係者で共有

※別紙「平成 28 年度『昭和未来会議』のおさらい（平成 29 年 7 月 2 日 第 11 回昭和未来会議資料）」参照

(2) アクションプロジェクトの内容

①イベントグループ

⇒「アクションプロジェクトミーティング」を定期的で開催。「昭和☆まもりんピック」開催決定。今後も継続してミーティングを続ける

②日常の交流の場グループ

⇒多文化交流「畑」の検討

③支援が必要な方に対してできることグループ

⇒「昭和ケア会議（仮称）」スタート

2. 「第1回昭和ケア会議の主な意見」

- ・高齢化が著しい。支援者単独ではケアしきれない。認知症で一人暮らしの方もいる。
- ・昭和地区は様々な土地から集まってきた方が多く、地域の繋がりが薄い。昭和未来会議や昭和ケア会議といった機会は有効。
- ・民生委員として決められたことがあるので、それは対応できるが、震災等いざという時に何ができるか不安がある。こういった機会学びたい。
- ・自分が支援を受ける側になった際にも、こういう場で学んだことが生きると思う。
- ・活動の担い手として、若者の参加が必要。
- ・若者と交流する機会が設けられれば（⇒昭和まもりんピックや昭和未来会議でも対応）。
- ・民生委員に相談しやすくわかりやすくなるようになれば良い。玄関に「旗」をたてては？

※この他、各地区、各分野の取り組みや課題等について情報交換が行われました。個別の内容は地域資源の情報整理の際に反映していきます。

※各高齢者サロンの取り組みの情報交換も行われました。

※昭和未来会議出席者から未来会議のおさらいや会議にかける想いについてお話もありました。

※商店街の今後、URとの協定、中電や中日新聞等の見守りサービスの情報交換などもおこわれ
ました

3. 昭和地ケア会議の次回以降の予定

「サロンに参加して高齢者の声を直接聞いてみよう！」

日時：平成29年8月4日（金）11時～13時30分

場所：ほほえみの里「プラザ昭和」

※昼食付。550円。（サロンの参加者さんと一緒に昼食を食べながら交流します）

<今後検討したい内容（案）>

☆「昭和地区の地域資源の情報を集約して共有しよう！」

（地域資源の情報を事務局で整理。これをもとに、情報の補足や共有等意を実施）

☆「誰もが不安な認知症対策。まず、できる事から始めませんか?!」

（昭和版認知症サポーター養成講座、認知笑劇団等の実施検討）

☆「昭和ケア会議」参加メンバー発案のアクションは随時検討、実施していきましょう！

☆テーマ別勉強会の開催、結果を昭和未来会議で情報提供

（みなさんのご希望を募りテーマを決定。テーマに応じたゲストも招きつつ実施）

以上です